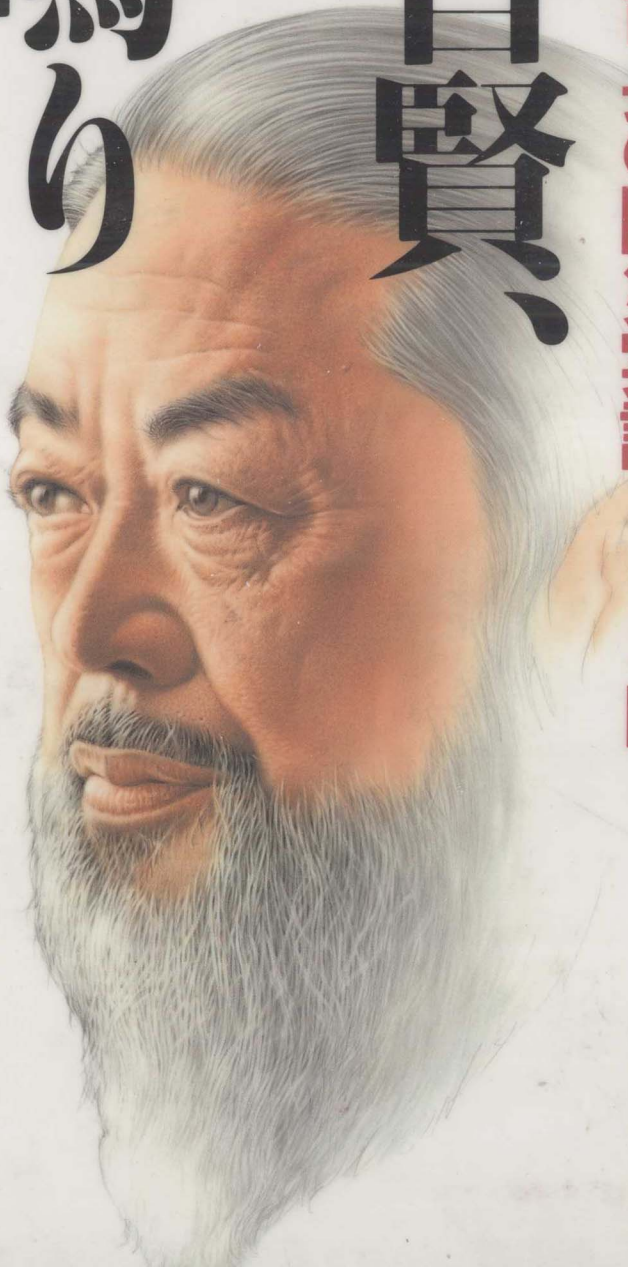
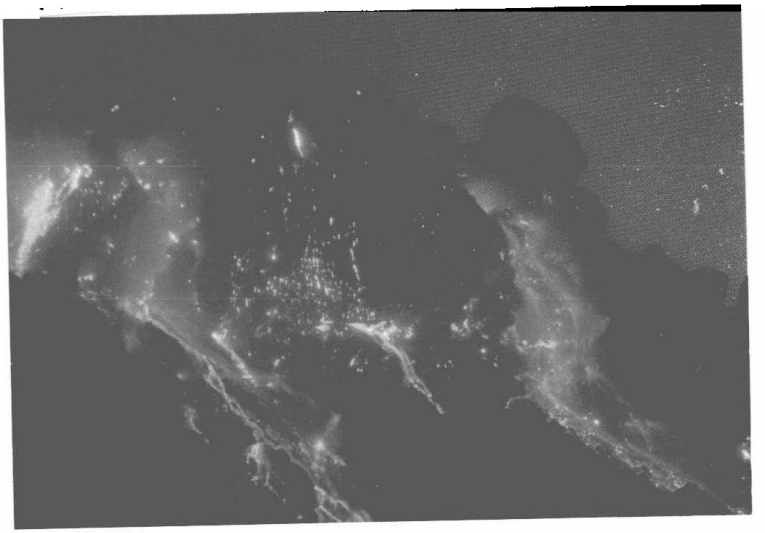
ヒゲ市長の防災実記763日

普賢、鳴りやまず

前島原市長
鐘ケ江管一





ヒゲ市長の防災実記763日

普賢、鳴りやまず

前島原市長
鐘ケ江管一

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

普賢(ふげん)、鳴(な)りやまず

1993年9月25日　第一刷発行

著者　鐘ヶ江管一

発行者　若菜　正

発行所　株式会社集英社

〒101-50　東京都千代田区一ツ橋2-5-10

☎（03）3230-6234（編集部）

☎（03）3230-6393（販売部）

☎（03）3230-6080（制作部）

印刷所　凸版印刷株式会社

検印廃止

乱丁・落丁本が万一ありましたら、
小社制作部あてにお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。
本書の内容の一部または全部を
無断で複写・複製することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

© 1993 K. KANEGAE Printed in Japan

ISBN4-08-783073-X　C0031

平成三年六月三日の大火砕流に呑まれた
四十三人の犠牲者に捧げる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

平成二年十一月十七日の噴火以来、すでに二年半以上、火山活動が続いております雲仙・普賢岳噴火災害に際しましては、全国から数多くの励ましや援助物資、義援金などをお寄せいただき、誠にありがとうございました。

すでに、みなさまもテレビや新聞などの報道でご承知のとおり、普賢岳はいまもなお、噴火活動が続いております。

季節はずれともいうべき集中豪雨によって、平成五年四月二十八日から五月二日にかけては、水無川流域を中心に大土石流が襲い、島原市南部の安中地区は、流失全半壊家屋四〇八棟と、壊滅的な打撃を被りました。また、梅雨入り後の六月十八日から二十日にかけて、再度、土石流が発生し、追い討ちをかけるように、ほぼ同じ地域に流出し、新たに流失全半壊家屋六一棟を出しました。また、六月二十六日には、最大規模の火砕流が水無川を駆け下り、島原市と深江町をつなぐ国道五七号を分断してしまうなど、水無川中・下流域の集落は、土石流に埋もれ、火砕流に焼かれるままという状態で、住民はすでに二年以上、避難生活を強いられております。

被害は水無川流域だけにとどまらず、噴火当初から憂慮されておりました、普賢岳から島原の市街北部をかすめて流れる中尾川流域にも拡大しました。五月以降、火砕流は、中尾川流域の千

本木地区側に拡大し、住民の避難・安全確保には万全の対策を講じておりましたにもかかわらず、六月二十三日には警戒区域に入っていた住民一名が火砕流に呑まれ、平成三年の六月三日の大火砕流以来、二年ぶりに四十四人目の犠牲者を出してしまいました。この火砕流による焼失家屋は一八〇余棟にも上り、南北千本木地区の一七六世帯、六六三人の住民は、帰るべき家を、集落を失いました。

台風、集中豪雨災害などと異なり、火山噴火災害は、一過性の自然災害ではありません。火砕流、土石流といった防御不能な災害が人家の密集地域に押し寄せてきたのが、今回の雲仙・普賢岳噴火災害の大きな特徴です。

家や田畑を焼失、流失した人、また、家はまだ残っていても、火砕流、土石流の危険のためにわが家に戻ることができない人など、避難生活を続けている住民は、島原市全体で六九六世帯、二六九二人、隣の深江町に一九五世帯、九二二人に上ります（平成五年七月十日現在）。

普賢岳の火山活動がいつまで続くのか、少なくともマグマの噴出がいつになったら終息するのか、島原市民は山が治まる日を一日千秋の思いで待ち続けておりますが、火山予知連絡会をはじめ、専門の研究者の間でも、その予測は困難とされています。

災害の発生と同時に、国や県からも、被災住民の救済に全力を傾けていただき、平成四年度には、土石流対策のためのスーパー砂防ダムや導流堤の建設が決められるなど、防災・復興計画がスタートいたしました。

先祖代々、住み慣れた故郷を捨てるのは忍びがたいことです。島原市民はいかにつらくとも、この災害に耐え、乗り越えて、将来的には、普賢岳とともに生きる道を模索していかねばなりません。被災者の方々の生活再建はもとより、火山に負けない町づくりに、島原市民一丸となって取り組もうとしているのです。

日本列島は、地震国、火山国です。活火山は全国に八三峰、活動に注意を要するとして、常時観測体制がとられている火山だけで一二峰あります。

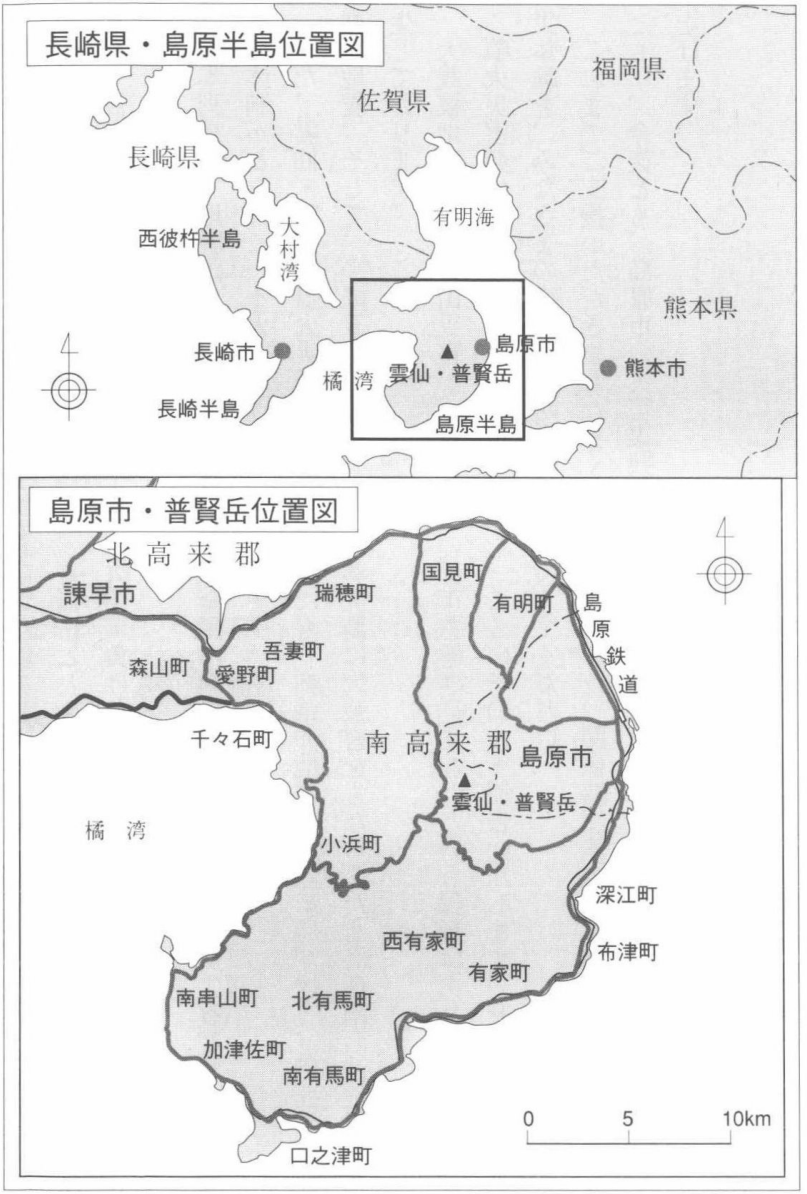
また、雲仙・普賢岳噴火災害が続いている間にも、釧路沖地震、能登半島沖地震、伊豆半島沖群発地震、そして、平成五年七月十二日には奥尻島に大被害をもたらした北海道南西沖地震が発生しております。

大規模地震災害や火山災害が、みなさまの都市を巻き込まないという保証はありません。

噴火災害発生以来の私ども島原市の体験を、ここにそのまま報告いたします。ぜひ、島原の被災体験を、みなさまの市町村の防災計画にお役立てください。

これまでご支援いただきました多くのみなさま、また、関係諸団体に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、島原市の災害復興に、ご理解、ご支援たまわりますよう、心からお願い申し上げます。

前 島原市長　鐘ケ江管一


長崎県・島原半島位置図
福岡県
佐賀県
長崎県
有明海
西彼杵半島
大村湾
熊本県
長崎市
島原市
雲仙・普賢岳
熊本市
橘湾
長崎半島
島原半島
島原市・普賢岳位置図
北高来郡
諫早市
瑞穂町
国見町
有明町
島原鉄道
吾妻町
森山町
愛野町
千々石町
南高来郡
島原市
雲仙・普賢岳
橘湾
小浜町
深江町
西有家町
布津町
有家町
南串山町
北有馬町
加津佐町
南有馬町
口之津町
0
5
10km

普賢、鳴りやまず

目次

献辞 ―― 1
はじめに ―― 3
I章 ―― 13
祈るしかないのか ―― 14
平成五年六月二十三日　中尾川沿いに大火砕流
平成五年四月二十八日―五月二日　安中地区に大土石流
II章 ―― 29
噴煙上がる ―― 30
平成二年十一月十七日　普賢岳噴火

情報パニック――「史上最大の避難作戦」中止に
「眉山崩壊に備えた特別避難計画」

豪雨と土石流 45
平成三年五月十五日　初の土石流
「避難勧告」「解除」、「避難勧告」「解除」……の繰り返し
火砕流で避難勧告

大火砕流の黒煙の下で 61
平成三年六月三日　十六時十分　大火砕流発生
「生きていてくれ」の願いむなしく

熱ったかったろ？ 71
涙あふれてただ泣くのみ
なぜ彼らは避難勧告地域に入ったのか
パニック打ち消し、ひと騒動
有害？　無害？　マスコミの見えない威力

悩み抜いての「立入禁止」 85
「警戒区域の設定」で鳩首会談
「警戒区域」設定余波
誰が危険と決めるのか？

III章 103

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

被災住民に支援を ―― 104
海部総理の「特別立法でも」に大きな期待
「体育館ゼロ作戦」スタート
救援物資、続々到着
「特別立法」は宙に浮く ―― 120
「腹を切って」でも救済策を
橋本蔵相への直談判
両陛下のお見舞いに感涙 ―― 131
袖をまくられ、膝をつかれてのお言葉
「ヒゲの市長」と呼ばれて
政府救済策やっとまとまる ―― 139
「被災住民に個別補償を」と直訴
閉ざされる損失補償
緊急陳情――大蔵省の壁は厚く
三〇〇億災害対策基金の創設
「泣きの鐘ケ江」で結構 ―― 158
「市長はご遠慮を」
十二年間で休みは二日

IV章 ―― 173

災害復興元年スタート ―― 174
行政窓口としての苦悩
被災住民の生活再建を
防災復興計画始まる
被災住民、避難住民間のギャップ

公私の「公」、公私の「私」 ―― 200
大火砕流から一周忌
市長選に対立候補
「出馬はしません」「まいっぺん言ってみて?」
吉岡庭二郎新市長の誕生

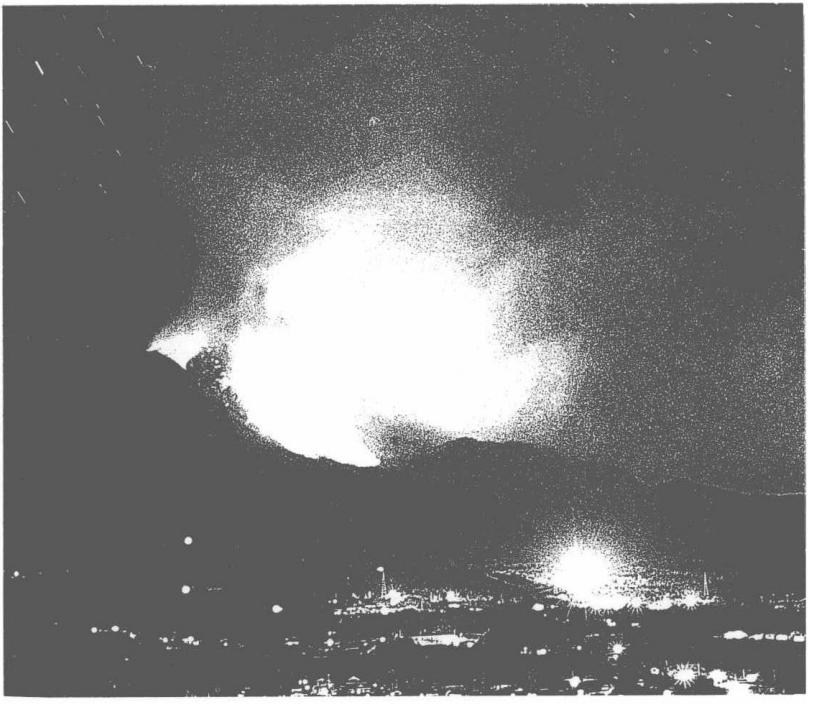
退任の日 ―― 219
人事を尽くして天命を待つ
四十三人の方々の命の重みを背負って

ご支援ありがとうございました ―― 230
義援金はこう使わせていただいております

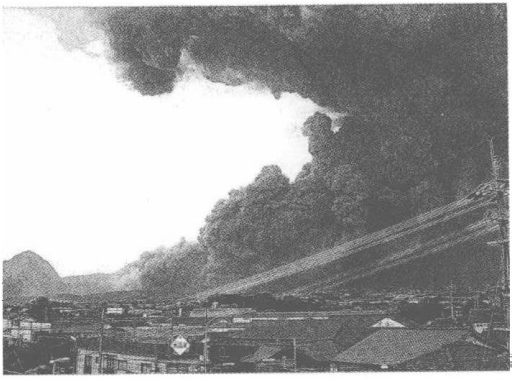
資料編 ―― 237
①義援金配分単価一覧表 ―― 238
②政府が決定した「雲仙岳噴火災害に係る被災者救済対策」（二十一分野九十八項目） ―― 240

あとがき ―― 252

普賢、鳴りやまず



1章



祈るしかないのか

平成五年六月二十三日　中尾川沿いに大火砕流

〈同日八時二十五分、九時八分、十一時二十分　防災同報無線〉

「こちらは防災島原市役所です。災害対策本部からお知らせいたします。千本木方向には規模の大きな火砕流が頻発(ひんぱつ)し、たいへん危険です。警戒区域および避難勧告地域に入域されている方はただちに退去してください。こちらは防災島原市役所でした」

〈同日十一時二十五分　雲仙岳測候所　緊急火山情報第二号〉

「十一時十四分、波形の継続時間一三〇秒の火砕流が発生しました。この火砕流は火口から四キロメートル以上流下し、その先端は千本木に達しているもようです。火山活動は依然として活発な状態が続いています。千本木方面は、今後の火山活動に厳重に警戒してください」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com